

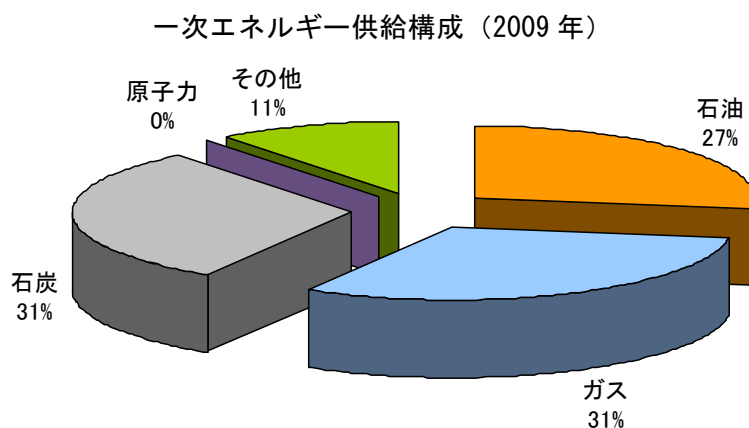
## 2-15 トルコ

### 1. サマリー

#### 1. エネルギー事情

トルコはエネルギー資源にあまり恵まれておらず、一次エネルギー供給の 70%以上を輸入に依存している。

- (1) 一次エネルギー供給量：92.15 石油換算百万トン（日本の約 19.5%）
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量：1.279 石油換算トン/人（日本の約 34.4%）
- (3) エネルギー自給率：30.2%
- (4) エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量：262.9 二酸化炭素百万トン（日本の約 22.0%）
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量：3.71 二酸化炭素トン/人（日本の約 41.1%）
- (6) エネルギー源別可採年数：石炭 22 年



(出所) IEA, Energy Balances of OECD Countries 2010

#### 2. エネルギー政策のポイント

##### (1) エネルギー政策担当機関

トルコのエネルギー政策は、石油・ガス関連についてはエネルギー天然資源省 (Ministry of Energy and Natural resources) が管轄し、温暖化ガスの排出量削減など環境面の取り組みについては環境森林省 (Ministry of Environment and Forest) が管轄する。

##### (2) 基本政策

トルコ経済は農業からサービス産業・工業に急激に移行しようとしている。それに伴い、一次エネルギー総供給は1960年に1,070万石油換算トンであったものが2000年には7,640万製油換算トン、2008年には9,215万石油換算トンと、それぞれ7倍強、9倍強と増加している。このようなエネルギー需要の拡大に対し、トルコ政府は以下のような主要目標を掲げている。

- ・ 経済と社会の発展を支援するため、十分に信頼でき、経済性のあるエネルギー供給を

保障する。

- ・ エネルギー供給の安定を維持する。
- ・ 増大するエネルギー需要を満たすような十分な投資を奨励する。

以上の目的達成の実行のため、2006 年 6 月 28 日、トルコ議会は第 9 次開発 5 カ年計画 (2007-2013) を決定した。

### 3. 日本とエネルギー分野における関係

トルコではエネルギーの輸入依存度が高く、自給率は 30%程度であり、エネルギー消費の増大もあり、トルコ国立省エネルギーセンターを設立するなど努力を続けている。しかし研究の実施体制やノウハウが不十分な為、省エネ技術の進んだ日本が 2000~2005 年にわたり、「省エネプロジェクト」を実施し、協力してきた。

### 2. 主要エネルギー指標

(2009 年)

(1) 一次エネルギー供給量	92.15	石油換算百万トン
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給	1.279	石油換算トン/人
(3) GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.2578	石油換算トン/千ドル
(4) エネルギー自給率	30.22	%
(5) エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	262.9	二酸化炭素百万トン
(6) 一人当たりエネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	3.71	二酸化炭素トン/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	31.0 %
	石油	27.2 %
	ガス	31.3 %
	原子力	0.0 %
	水力	3.3 %
	再生可能エネルギー等	7.2 %
(8) エネルギーの輸入依存度	72.2	%
(9) 石油の輸入依存度	9.46	%
(10) 輸入原油の中東依存度	51.8	%
(11) 原油輸入先 (2006 年)	第 1 位	旧ソ連
	第 2 位	イラン
	第 3 位	サウジアラビア

(出所) (1)~(4)および(7)~(9)は IEA, Energy Balances of OECD Countries 2010

(5)~(6)は IEA, CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion 1971-2006, 2010

(10)~(11)は IEA, OIL INFORMATION, 2010